

受領No. 1694

違法薬物を対象とした下水疫学調査の社会実装に向けた社会的・制度的・倫理的課題と社会的受容条件の研究

代表研究者 水野 聡美（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部心理社会研究室 リサーチフェロー）

共同研究者 富山 健一（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部依存性薬物研究室 室長）



Social, Institutional, and Ethical Challenges in Implementing Wastewater-Based Epidemiology for Illicit Drugs in Japan

Representative Satomi Mizuno (Research Fellow, Section of Psychosocial Research, Department of Drug Dependence Research, National Institute of Mental Health, National Centre of Neurology and Psychiatry)

Collaborator Kenichi Tomiyama (Section Chief, Section of Addictive Drug Research, Department of Drug Dependence Research, National Institute of Mental Health, National Centre of Neurology and Psychiatry)

研究概要

本研究は、違法薬物を対象とした下水疫学調査を日本で実施することを想定し、社会的・制度的・倫理的課題を整理するとともに、日本社会における受容の条件について検討することを目的とする。日本では、警察統計や医療記録、自記式調査によって違法薬物の動向が把握されてきたが、調査非協力者や未規制物質の使用実態を捉えにくいという限界がある。下水疫学調査は、下水中の薬物や代謝産物を分析することで、個人を特定せずに地域単位の消費動向を把握し得る手法として、一部の国で実施や検証が進んでいる。本研究では、先行する海外の政策資料や文献情報の整理に加え、下水処理に関与する関係者等の視点も考慮しながら、本手法に対する懸念や期待、社会的な受け止め方を検討する。得られた知見は、日本における下水疫学調査の今後の検討に資する基礎的資料となることが期待される。